

5 令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月24日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	①カリキュラムマネジメントの視点から魅力ある教育課程を編成し、運用・改善する。 ②授業改善に組織的に取り組み、基礎学力の定着を図り、思考・判断・表現する力を伸長することで、主体的に活動できる人材、いつでも社会に出られる人材を育成する。	①編成した教育課程を運用し、目標を明確にし、改善に努める。 ②振り返りをもとに授業改善に組織的に取り組み、生徒の基礎学力の定着、学力の充実を目指す。	①編成した教育課程を運用し、目標を明確にし、研修等を実施して改善に努める。 ②振り返りをを行い、テーマを設定し、授業改善に組織的に取り組む。	①教育課程を運用し、目標を踏まえ、改善すべき項目を見出すことができたか。 ②振り返りを踏まえ、テーマを設定し、授業改善に組織的に取り組むことができたか。	①カリキュラムマネジメントの視点から教育課程編成指針に沿って編成した教育課程について進路別の選択方法などについて分析・検討を行った。 ②テーマ「学び続ける人」の資質向上のための主体的な学びの実践を設定し、各教科での検討を行った。	①多様な進路選択に対応できるよう、継続して検討を進める。また運用を始めて出た履修の組み合わせや授業展開など具体的な問題について検討を進めていく。 ②テーマについてのそれぞれのイメージを共有し、整理した。また、授業改善月間での振り返りをもとにICT活用のさらなる実践や組織的な授業改善に取り組むための時間の確保に努める。	①カリキュラムについて継続して検討を行い、生徒が主体的に学べる環境をさらに整えてもらいたい。 ②授業評価アンケートから意欲的に授業に取り組んでいる生徒の割合は高いが、具体的なコメントがどうなのか気になる。理想は生徒自身が授業を作り上げることであり、主体的な学びの実践が功を奏し生涯にわたり続けていけるようになること。探究的な学びのプログラムを導入したので、各教科の学びの中にも応用できるようにする必要がある。	①概ね、多様な進路選択に対応できるカリキュラムの運用ができた。 ②多くの教員がICTを活用し、授業改善に取り組んでおり、学校全体としてさらに活用を進めていく必要がある。タブレットを使いづらい教科もあり、教科を横断した取組の共有が必要である。指導と評価の一体化については、目標に対して生徒がどのように努力しているかという教師側の視点が不十分な場面が見られる。	①履修の組み合わせや展開など生徒一人一人に寄り添えるよう分析・検討を継続して行う。 ②ICT活用のための研修の時間をさらに設け、クラスの仲間と協働的な学びが実現できるようにする。ベテラン教諭の深みのある授業内容（コンテンツ）とICTを活用した授業を融合させながら授業改善を進める。教師側が授業内容の見直しを逐一行っているかという教師側の視点から生徒主体の授業づくりを進める必要がある。
2	①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として行動するための規範意識を高める。 ②自己理解・他者理解を深め、自他を尊重できる人間関係を築き、いつでも社会に出られる（社会に通用する）コミュニケーション能力を育む。	①生徒はルールを遵守し、挨拶ができ、望ましい生活習慣を身につけている。 ②生徒主体の行事運営を行う中で、自他を尊重できる人間関係を築くとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。	②挨拶運動、いじめアンケートの活用。継続的な服装・遅刻指導に取り組む。 ②コロナ禍で活動が制限される中でも生徒が主体となり、多角的視点で行事の企画・運営ができるように適切な助言や支援を行う。	①6割以上の生徒がしっかりと挨拶することができた。また、遅刻が昨年度を下回ったか。 ②生徒の活動において5割以上の生徒が積極的に取り組み、満足感や達成感を味わうことができたか。また様々な生徒会活動を外部に向けて発信できたか。	①自発的な挨拶をする生徒は7割に届かなかったが挨拶の文化は部活動の生徒を中心に根付き、学校内に広まりつつあった。遅刻については特定の生徒が回数を重ねる傾向を改善することができなかった。 ②学校行事を行うにあたり、様々な場面で制限がある中でも生徒が主体となりアイデアを出し合いながら新たなことにチャレンジすることができた。また2学期の球技大会においては感染対策を万全にして3学年合同で開催することができた。	①挨拶については引き続き自発的に挨拶を行える環境、雰囲気を作る。遅刻指導については、個別かつ効果的な指導の方法を考え、担任、生活指導担当教諭だけでなく、職員全体で指導を行える環境、雰囲気を作っていく。 ②コロナ禍で生徒主体の学校行事を実施するということの難しさを感じた。また来年度についてはコロナに対する扱いが変わるためコロナ前の状況に戻しつつ生徒主体で学校行事を行えるよう支援をしていく。	①いじめアンケートや個別の面談を随時実施しながら生徒からの相談の有無についてこまめに現状把握ができており安心である。部活動の加入率が5割を切っているため加入率が上がれば挨拶ができる生徒の割合が増えるかもしれない。 ②ケアプラザでのボランティアの場面では生徒主体で企画・運営ができており、職員はそれを見守っているだけでよく、とてもよい関係ができていく。生徒の活動をコロナ前の状態にいかに戻していくかが課題である。	①部活動に加入していない生徒に自発的に挨拶できる環境や雰囲気を作っていく必要がある。遅刻指導についてはより家庭と協力して根気強く支援する必要がある。 ②学校行事など様々な場面において、生徒主体で実施可能なアイデアを考えながら活動が行われていることはとても評価できる。今後はコロナに対する取扱いが変わる中でどのようなかたちでコロナ前の状況に戻していくか考えていかなければならない。	①「あいさつ運動週間」を作り、風紀委員の生徒、職員、PTAの保護者が連携して校門付近や生徒昇降口で挨拶活動を行うなど新たな取組も視野に入れる。 ②県からの通知や学校生活を送る生徒の様子を考慮しながら、学校行事等の生徒の活動を段階を踏んでコロナ前の状態に戻していく。その中でも生徒主体の学校行事が行えるよう職員全体で支援していく。
3	①学習意欲に結び付けるキャリア教育を展開し、保護者・家族と共にライフプランの実現ができるようなキャリアデザイン能力を身につけさせる。	①卒業後10年の将来像を描き、その実現のために意欲的に学習に取り組む、進路決定に挑戦させる。	①デジタルトランスフォーメーションを促進し、効率よく学習活動ができるようにする。 ①安易な進路選択をせず、目標実現を考え行動することができる。	①家庭学習の時間が増えたか。 ①学習の質が高められたか。 ①目標実現のための挑戦ができたか。	①家庭学習の時間は伸びず、むしろ減少している傾向にある。 ①スタディサプリなどのICTツールにより学習の仕方に変化が起きている。 ①進路決定に際し、成績を目安に指定校推薦の中で選ぶという傾向が続いている。	①主体的な学習活動へとつなげるものとして、進路意識の向上がもっと必要であり、対応を要す。 ①ICTによる学習ツールを利用する生徒とそうでない生徒の二極化が生まれており、利用に対する積極的な指導を行う。 ①先輩や同級生など身近なところからの情報が中心であり、より広い視野で進路を考えさせることが必要と思われる。今年度は2年キャンパスツアーを再開し、進路選択へ意識を向けさせる。	①家庭学習の習慣作りは難しいと思われるが、必要性を理解させ意識を高めてほしい。特にICT学習ツールを活用できる環境を作ってほしい。 ①一般受験でチャレンジしていく意欲を高め、良い結果へと結び付けてほしい。 ①進路意識を高めることは大切であり、今後も広い視野を持たせるように指導を続けてもらいたい。	①一般受験に計画的に取り組む生徒もおり一定の成果は得られているが、まだ十分とは言えない。進路と学習との結びつきについて、さらに理解を深めさせる必要がある。指定校推薦での進路実現を安易に選択するのではなく、今後も総合型選抜や一般受験にチャレンジする生徒を育てなければならぬ。	①進学について、生徒の意識は身近な地元に向いており、もっと広い視野で選択できるように指導することが必要である。 ①学習意欲を高めるために、単に必要性を意識させるだけでなく、学ぶことの楽しさを伝え、主体的な進路選択につなげられるような仕組みを構築する。

5 令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月24日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	<p>①学校と地域の連携協働の「現状と課題」を把握し、改善を意識した学校運営協議会を運営する。</p> <p>②学校と地域の連携協働の促進により、地域連携部会において生徒と地域の両方の将来を考えていく開かれた学校づくりを進め、地域の力を学校運営に反映させる。</p>	<p>①学校運営協議会の充実を図り、学校運営協議会をとおして地域と協働連携を図り、地域の力を学校運営に生かす。</p> <p>②地域連携部会等の連携をとおして、学校と地域がともに生徒を育てる取組を推進する。</p>	<p>①学校運営協議会の意見や提言を生かす取組ができるように各部署との連携を強化する。</p> <p>②ICT機器を活用し、工夫しながら地域との連携を図り、学校と地域がともに生徒を育てる取組を推進・検討する。</p>	<p>①学校運営協議会での協議が学校運営に反映させる調整を図ることができたか。</p> <p>②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を広報的な視点で学校内外へ情報発信をできたか。</p>	<p>①学校運営協議会の意見や提言を生かす取組ができるように各部署との連携の強化を目指した。「あさひアワード」により、活躍等した生徒の表彰を行った。</p> <p>②地域連携部会にて生徒会生徒が参加し、地域との連携協働の意識を高めた。旭だよりを発行し地域へ定期的な情報を発信した。ボランティア生徒が地域との交流を行った。</p>	<p>①議事録の作成をより迅速に作成する必要がある。また、各部署との連携をより強化する。様々な取組の情報の発信をさらに充実させていく。</p> <p>②生徒の主体的な取組を広報的な視点で学校内外へ迅速で適切な情報発信をさらに充実させていく。ICT機器を活用し更なる取組を推進させていく。</p>	<p>①「あさひアワード」により、活躍等した生徒の表彰を行ったことは評価できる。今後も生徒にスポットライトを当てていける活動を充実させてほしい。</p> <p>②ケアプラザでの吹奏楽部との交流や特別支援学校とのクリスマスツリーの飾付などボランティア生徒が地域との連携協働の意識を高めて活動したことは評価できるし、大人より高校生の方が、適応力があると感じた。学校の職員は黒子に徹し、生徒と地域が主役となる交流を今後も期待する。</p> <p>③国際交流のための事前研修は大学と連携することもできるので相談してほしい。</p>	<p>①「あさひアワード」による活躍した生徒の表彰はチャレンジできる生徒の模範となり、他の生徒の意欲喚起につながった。</p> <p>②今年度はコロナによる行動制限が緩和され、ボランティア生徒の地域交流を行うことができた。</p> <p>③AGE28の取組として有志生徒による2年目となるイングリッシュキャンプやカナダの高校生とのオンライン交流が実現した。一方で地域の教育力を学校教育活動に活用する人材バンクの構築には至らなかった。</p>	<p>①学校運営協議会の意見や提言を生かす取組ができるよう各部署と連携し、学校運営に活かす具体的方策について集約し、実現に向けて取り組んでいく。</p> <p>②今後はICTの活用も視野に入れて、より充実した地域交流を目指して取り組んでいく。</p> <p>③外国語をツールとした国際交流の活動を一層広げていくとともに、部活動の地域連携や地域移行を念頭に、受益者負担による部活動指導員等の人材バンクの仕組みを早期に構築し実現する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①ICTを活用したさまざまな活動を支援するための教育環境を整備する。</p> <p>②生徒の防災意識・感染対策意識の向上に努める。また、SDGsを推進するための意識を醸成する。</p> <p>③情報を迅速に発信し、開かれた学校をつくる。</p>	<p>①教育環境のさらなる充実をし、TVモニターの整備及び通信環境が不十分な場所の整備をする。</p> <p>②防災意識の向上を図り高めることと実際の訓練により適切な対応ができるようにする。</p> <p>③本校の魅力を適切かつ迅速に発信することができる。</p>	<p>①特別教室等のモニター設置を周年事業に盛り込む。B棟の通信設備の設置をする。</p> <p>②放課後の部活動時の防災訓練の実施及び通常授業時の防災訓練の実施をする。</p> <p>③生徒がホームページ作りに参加し、生徒主体の活動をホームページに掲載してホームページを充実させることができたか。</p> <p>③生徒主体の学校説明会を実施することで、学校の様子を中学生や保護者に伝えられるような学校説明会等の運営を進める。</p>	<p>①モニターが設置できたか。通信設備整備ができたか。</p> <p>②迅速な訓練が実施できたか。アンケート等の振り返りでの評価。</p> <p>③生徒主体の活動をホームページに適切かつ迅速に掲載して、ホームページを充実させることができたか。</p> <p>③学校説明会のアンケートで90%以上の肯定的回答が得られたか。</p>	<p>①教育環境の充実についてモニターの設置が完了した。</p> <p>②放課後の部活動時の防災訓練を実施した。全体の防災訓練は、雨天のため、各HR単位での防災教育を実施した。生徒1人の防災意識を高めることができた。</p> <p>③ホームページを見直し、充実を図った。また、部活動の活動内容を生徒が主体的に取り組み、毎月更新した。</p> <p>③生徒主体の学校説明会等を実施した。年間を通して延べ2500名を超える人数の中学生、保護者が参加した。</p>	<p>①モニターの故障や破損について、次年度予算に項目立てを行い、対応したい。</p> <p>②次年度において、さらなる防災意識を高めていくために、抜き打ちのシェイクアウト訓練等を織り交ぜながら様々な状況に対応できるように実施する。</p> <p>③本校の魅力を発信できるように、定期的に見直し、さらなる充実を目指す。</p> <p>③第一回、第二回の学校説明会のアンケートで90%以上の肯定的回答が得られた。</p>	<p>①ICT利活用に必要な教育設備が概ね整備されてよかった。</p> <p>②南海トラフ地震が想定されており、大災害に備える取組は重要な課題である。</p> <p>③ホームページを見直し、充実を図ったこと、部活動の活動内容を生徒が主体的に取り組んで毎月更新したことは評価できる。ホームページ以外の情報発信ツールの使用も検討してほしい。</p> <p>③学校説明会等のアンケートで肯定的な回答を得たことは評価できる。今後も生徒主体の広報活動を継続してほしい。</p>	<p>①ICT利活用の教育環境は整備が整ったので、今後は、故障時の対応について検討する。</p> <p>②雨天時も含めたロングホームルーム計画に位置付け、各学期に実施できるようにする。</p> <p>③ホームページを見直し、充実を図った。また、部活動の活動内容の原稿を生徒に記載させ毎月更新し、主体的な活動を促した。</p> <p>③生徒主体の学校説明会等を実施した。年間を通して多くの中学生、保護者が参加し、アンケートでは肯定的な回答が多数得られた。</p>	<p>①今後、経年劣化等が考えられるので、入れ替えも含めた予算立てを検討する。</p> <p>②コロナ対策や雨天等でグラウンドへの避難訓練が行えていないので実施時期の設定を考える。</p> <p>③本校の魅力を適切かつ迅速に発信できるようにさらにホームページの充実に取り組み。またホームページ以外の情報発信ツールの使用も検討する。</p> <p>③次年度も生徒主体の学校説明会等を実施し、多くの中学生、保護者に本校の魅力を伝えられるような取り組みを継続して行う。</p>